

東北風景写真家協会会員向け会報「東風季報」第11号です。当会報は会の行事、活動計画、各種のお知らせ、撮影適所、撮影情報、撮影テクニックなどの記事を掲載しております。

東風季報

発行
東北風景写真家協会
仙台市宮城野区榴ヶ岡3-8-15
東北カラーデューブ(株)内
tel: 022-256-2141
編集 秋葉・進藤

東北風景写真家協会 第四回総会報告

平成二十二年二月十四日(日)当協会の第四回総会が仙台市の戦災復興記念館四階研修室にて開催されました。総会に併せ椎名亮介顧問の「スライド&トークセミナー」も開催され、冬季の撮影に役立つお話が美しいスライドと共に紹介されました。(別欄に要約を記載)総会は提出された議事案を承認され無事終了しました。当日参加出来なかった会員の方々は総会資料をお送りさせて頂きましたので、ご覧下さい。

総会は午後4時30分に員異動状況と会員拡大に秋葉健一幹事兼編集長の司会にて松本幹事が、藤枝木会長より、写真展を開催したが、「美しい日本」が壊れていく現状、今後も「美しい日本」が続く様皆で努力してゆきたいとの挨拶。続いて竹内正顧問より、椎名顧問へセミナーに対してのお礼。美しい風景を求めて見直しがされている。当会も4回目の総会を迎えた。皆さんと共に美しい風景を楽しみ、また記録に残してゆきたい。会員が100名になると組織として活動していかねばならない。東北の風景も地域の会員と共に見直してゆきたい。と挨拶頂いた。

その後、定足数を確認(出席46名、委任状37名)総会の成立を報告。続いて議長に佐々木康照監事を選出。議長挨拶後議事に入りました。

一、平成21年度事業報告は秋葉幹事より一般的事項、撮影会、会報発行、役員会・幹事会を報告。会

誘だけでなく、各県で写真展をやり、地元の方とのコミュニケーションを取る巡回展を考えてはとの提案。山形の須貝会員から情報交換を月1回開催希望が出された。議長より会報を充実していくことが話された。

三、会計監査報告は佐藤義則監事より正確に処理されている旨報告され、意見も含め異議なしの承認されました。

四、平成22年度事業計画(案)は秋葉幹事より撮影会、展示発表会、セミナー及び撮影実習、組織拡大、季刊紙発行等について説明。

五、平成22年度収支計画(案)について渡邊会計幹事より説明。議長よりその他で会に対する希望や意見、気が付いたこと等問いつけ、秋田の小松会員より意見として、撮影ポイントで白神・十和田等見所があるので計画の希望が出されたい。椎名顧問より入会のお礼がなされた。

椎名顧問セミナー 「冬景色 光と影で美しく」



椎名亮介顧問

総会に先立ち、椎名亮介先生より、冬風景撮影のポイントについて、ご講演いただいた。

冬風景は色彩の変化に乏しいが、雪や氷の世界にはシンプルで神秘的な魅力と感動がある。基本を大切に、光と影をうまく取り入れて画像の印象を豊かなものに変えていくことが大切である。主な題材のポイントをあげよう。

霧氷 暗いバックにして逆光で輝くように撮る。青空をPLで落としバランス良く入れて霧氷の白の美しさを表現しよう。

氷雪模様 自分でイメージして、自然の光を上手に取り入れる。朝の光や、色温度を生かして色彩に変化をつける。

雪景色 起伏のあるところ、斜面や曲線を入れて奥行きをだす。前景にバランス良く樹木等を入れるのも良い。降る雪は早は至っておりませんが、いくつか検討課題が挙げられます。

作品展を振り返って 藤枝克治

第2回作品展(美しい日本)平成22年2月5日(水)〜10日(木)の6日間せんだいメディアテーク5Fで開催されました。会員53名、顧問3名の先生方の作品も含まれ100点の作品展を行いました。作品展が盛りだくさんでした。作品は半切、クリスタルプリン、裏打ち額装すること、裏打ち額装すること、原則統一したこと、会場はすっきりとした感じになりました。また竹内敏信、椎名亮介、竹内正各顧問の作品も来場者の目を引き作品展を盛り上げた。

悪天候の日もある中、延べ1,560人のご来場を頂き、貴重なご意見、ご指導を頂きました。誠にありがとうございました。顧問の先生方、会員各位のご協力のおかげと厚く御礼申し上げます。

作品展と総会の間隔が4日間と短く、幹事会として十分な総括に行う。



メディアテーク5F会場

1. 年末の忙しい時期に作品の準備を終了しなればならなかった。
2. 参加費1万円、作品準備に約1万円と2万円以上掛かるのは、との声も聞かれた。もう少し安く出来ないか検討。
3. 作品選考会の件。選考をお願いする人とそうでない人と同じ扱いではないのか。
4. 出展作品選定からプリント、裏打ち、額装まで各自の責任で行う。搬入、撤去も各自の責任で行う。

5. 作品選定、タイトル連絡、費用納入等の締め切り厳守。
6. 作品展を他県で開催出来ないか。
等々いろいろご意見がでております。会員各位のご意見を伺いながら、より良い第3回作品展に向けて活動の糧にして参ります。

三、プリント・クリスタルプリントは高橋会員と最初から富士フィルムに決めていました。お値段と日数は少々余計に掛かり、時間的にも修正は難しい状況が想定されました。

四、額装他。今回の個展では額を高橋さんよりお借り出来て始めて実現できました。額装は大町の仙台画材に依頼。マットは3mm厚の白マットで、全紙は余黒から5mm内側で全紙は当初規定の寸法で依頼しました。しかし、余黒より上下2〜30mm内側になり、見えない部分が出来てしまいました。竹内顧問に電話で何だった所大きくカットして問題ないとのことで、仙台画材に余黒から5mm内側で加工してもらい迫力を出すことが出来ました。額装で感心したのは裏打ちとマットの縁で段差が出来るのをマットの切れ端で調整、平に仕上げさせて頂きました。プロの仕事ですね!

五、WIN・WIN。会場にお出で頂いた方に如何に喜んで見て頂けるかを工夫しました。プログラムは自作でカラー刷りに仕上げ、また、お礼状は展示作品からお好きなものを選んで貰い自分でプリントしました。

芳名帳は一寸違和感があったかも知れませんが、スケッチブックを使用、郵便番号を記入して貰ったかにもお礼状を送る早くと決まりました。手間隙も個展としては1500名を超え、自分も十分楽しめました。

いシャッター(例えば、1/100)で止めるか、それともスローシャッターで流すか狙いははっきりさせれば、暗いバックと組み合わせる。

会津地方を中心とした湖沼や滝などの種々の作例に感動をおぼえながら、時には水に落ちたハブニングもお聞きした。写真は後で見直すにも、アドバイスをいただくにも、基本的データを記録しておくことが大切である。先生の風景写真専用の「撮影データMEMO」を頂戴し、その中には今回の「冬風景撮影ポイント」も述べられている。これらを基本に冬景色も恐れにあらすとチャレンジしてみよう。(記・秋葉健一)

1月28日(木)〜2月2日(火)迄富士フィルムフォトサロン仙台にて高橋信一会員と一緒に個展を開催させて頂きました。その際には会よりお花をご寄贈頂き、また多くの会員にお出で頂き、誠に有難う御座いました。高橋信一会員には技術的、精神的、物理的に大変お世話になり、竹内顧問にも的確なプリントのアドバイス頂き、開催に漕ぎ着けました。

初めての個展開催で色々気がついた点がありまして、ご参考までに書き記させて頂きます。

一、会場の準備。成功の一番の鍵です。富士フィルムフォトサロン仙台が閉鎖になるのでは?との話は一部出ていたため、既に一度個展を開催された高橋会員からの提案で一緒に申込が出来、現場を借りられて幸いでした。「富士フィルム」さんに感謝!感謝!です。現場は3月初旬で閉鎖しますが、東口に新たに移転・開場することが決まっております。

二、展示作品の選考。作品は100点程ピックアップ、竹内顧問と相談の上50点2Lに焼き、その中から35点に絞りプリント指示も細かくして頂いた。最終的に全紙と全倍にプリントした作品は会場の展示レイアウトを考えた上で予備も含め25点に決めました。

三、プリント・クリスタルプリントは高橋会員と最初から富士フィルムに決めていました。お値段と日数は少々余計に掛かり、時間的にも修正は難しい状況が想定されました。

四、額装他。今回の個展では額を高橋さんよりお借り出来て始めて実現できました。額装は大町の仙台画材に依頼。マットは3mm厚の白マットで、全紙は余黒から5mm内側で全紙は当初規定の寸法で依頼しました。しかし、余黒より上下2〜30mm内側になり、見えない部分が出来てしまいました。竹内顧問に電話で何だった所大きくカットして問題ないとのことで、仙台画材に余黒から5mm内側で加工してもらい迫力を出すことが出来ました。額装で感心したのは裏打ちとマットの縁で段差が出来るのをマットの切れ端で調整、平に仕上げさせて頂きました。プロの仕事ですね!

五、WIN・WIN。会場にお出で頂いた方に如何に喜んで見て頂けるかを工夫しました。プログラムは自作でカラー刷りに仕上げ、また、お礼状は展示作品からお好きなものを選んで貰い自分でプリントしました。

芳名帳は一寸違和感があったかも知れませんが、スケッチブックを使用、郵便番号を記入して貰ったかにもお礼状を送る早くと決まりました。手間隙も個展としては1500名を超え、自分も十分楽しめました。

初めての個展を開催して 進藤弘融

1月28日(木)〜2月2日(火)迄富士フィルムフォトサロン仙台にて高橋信一会員と一緒に個展を開催させて頂きました。その際には会よりお花をご寄贈頂き、また多くの会員にお出で頂き、誠に有難う御座いました。高橋信一会員には技術的、精神的、物理的に大変お世話になり、竹内顧問にも的確なプリントのアドバイス頂き、開催に漕ぎ着けました。

初めての個展開催で色々気がついた点がありまして、ご参考までに書き記させて頂きます。

一、会場の準備。成功の一番の鍵です。富士フィルムフォトサロン仙台が閉鎖になるのでは?との話は一部出ていたため、既に一度個展を開催された高橋会員からの提案で一緒に申込が出来、現場を借りられて幸いでした。「富士フィルム」さんに感謝!感謝!です。現場は3月初旬で閉鎖しますが、東口に新たに移転・開場することが決まっております。

二、展示作品の選考。作品は100点程ピックアップ、竹内顧問と相談の上50点2Lに焼き、その中から35点に絞りプリント指示も細かくして頂いた。最終的に全紙と全倍にプリントした作品は会場の展示レイアウトを考えた上で予備も含め25点に決めました。

三、プリント・クリスタルプリントは高橋会員と最初から富士フィルムに決めていました。お値段と日数は少々余計に掛かり、時間的にも修正は難しい状況が想定されました。

四、額装他。今回の個展では額を高橋さんよりお借り出来て始めて実現できました。額装は大町の仙台画材に依頼。マットは3mm厚の白マットで、全紙は余黒から5mm内側で全紙は当初規定の寸法で依頼しました。しかし、余黒より上下2〜30mm内側になり、見えない部分が出来てしまいました。竹内顧問に電話で何だった所大きくカットして問題ないとのことで、仙台画材に余黒から5mm内側で加工してもらい迫力を出すことが出来ました。額装で感心したのは裏打ちとマットの縁で段差が出来るのをマットの切れ端で調整、平に仕上げさせて頂きました。プロの仕事ですね!

五、WIN・WIN。会場にお出で頂いた方に如何に喜んで見て頂けるかを工夫しました。プログラムは自作でカラー刷りに仕上げ、また、お礼状は展示作品からお好きなものを選んで貰い自分でプリントしました。

芳名帳は一寸違和感があったかも知れませんが、スケッチブックを使用、郵便番号を記入して貰ったかにもお礼状を送る早くと決まりました。手間隙も個展としては1500名を超え、自分も十分楽しめました。

飯豊の風景に抱かれて

さてはじめてからクイズですが、今回取り上げる小国のある山形県と宮城県ではどちらが面積が広いでしょうか？ 答えは皆さんお分かりの通り山形県は宮城県より3割近く広いのです。写真撮影に出かけるさい地図を見る機会が多いと思われまふ。それでは東北の仲間として東北6県の面積の広い順序と人口の多い順序を並べていただきます。これを正解された方は素晴らしい東北通であり立派な東北人です。（答えは文章の最後に）

小国を訪れて初めての印象は飯豊の山々が間近に迫らんとする圧巻で



残雪の飯豊山麓

古木も素晴らしい。夏には登山客が憧れの飯豊連峰を目指し全国から集まります。秋は一面ブナの黄葉で覆いつくされ、遅い春になると樽口峠の一本桜が2km級の雪を背景に華やかな風景を作ってくれます。その後ブナの若葉が輝き、小国の華やかな光景に多くの方々が訪れる季節となります。車で



Blue Hole (松本隆)

岩手、福島、秋田、青森、山形、宮城、人口の多い順：宮城、福島、青森、岩手、山形、秋田（松本隆）

皆さんは写真をどのようにならしていらっしゃるのでしょうか？ まず撮影は行き先やどのようにならしていらっしゃるのでしょうか？

人は個展を開きます。私などは時間と資金不足でなかなかそこまで至りません。そこで、自宅に飾り、他の方に利用していただくこともありますが、人々の出入りはそんなに多くないです。次を考

写真を楽しむには

渡辺 正博

ただ、楽しみにしていく方も多くなります。またプリンターの便箋作成機能も利用してお楽しみしていただきます。四季の写真をカットを入れた



フォトブック・マイカレンダー

フォトブック・マイカレンダー。身近なもの、季節の移り変わりや、祭事など地域に密着した作品も欲しくなります。このよ

ギャラリー「ブルーホール」の展示日
 10.3.13~10.6.16
 作家 椎名誠 写真展；水中写真家 中村征夫 写真展
 開館時間 10~16時、休館 12/31~1/3、8/13~8/16
 入場料 一般 200円
 〒018-1504 秋田県潟上市飯田川飯塚字飯塚34-1
 TEL 018-877-5772



往年のアサヒフレックス

丸山慎一。心臓を大切に！（次号につ

丸山慎一。心臓を大切に！（次号につ

写真美術館めぐり 中村征夫 水中写真ギャラリー「ブルーホール」

小玉醸造(株)の酒蔵が「中村征夫写真ギャラリー・ブルーホール」生まれ変わる。がキャッチフレーズです。ここは能代市から車で30分くらい、秋田市との中間に位置している。

写真...こんな話 あんな話 フィルムカメラも生きている その二

今回は、仙台市郊外の小さな喫茶店で遭遇した、自分で組み立てるカメラキットをひとつひとつ丁寧に組み立てている「女子カメラ(マン?)」の話をして

編集後記

今号は総会と第2回写真展開催、椎名顧問の